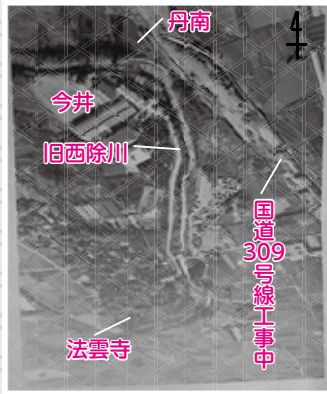


平成9年に通水した西除川ショートカット

西田 孝司 (松原市文化財保護審議会)



◀写真上に地名などを明示



▲ショートカット後の西除川 (大阪府提供)

▲昭和42年12月の西除川 (大阪府提供)

▲松林の自然堤防が残る旧西除川 左側(北)が丹南1丁目

▲旧西除川と新川の合流点 (丹南1丁目・美原区今井)

丹南と堺市美原区今井の境 蛇行する旧川と直線の新川

江戸時代の宝永元年(一七〇四)、大和川が現在のように柏原から松原・堺方面に付け替えられたことで、狭山池(大阪狭山市)より大坂城付近まで北流していた西除川は新大和川にさえぎられました。そのため、西除川も同時に西に改流され、天美南から天美我堂を経て、堺の浅香山で新大和川に合流させられたのです。

西除川は、江戸時代から大和川や東除川と並んで有名な川でした。狭山池の西余水吐より流出するので、西除川とよび、享和元年(一八〇一)の『河内名所図会』には西余下川と記されています。東除川も、狭山池の東余水吐より流れ、同図会に東余下川とあります。

一方、享保二十年(一七三五)の『河内志』には、本市の大部分が含まれた丹北郡の「山川」の項に「西渠」とあり、「丹南郡より流れ、東代(現東新町)や池内(現天美東)から新大和川に入る」と記されています。

天美地域におけるこの江戸時代の西除川の付け替えは歴史的にはよく取り上げられますが、昭和末期から平成前半にかけて、旧美原町今井(現堺市美原区)方面から市域丹南を流れていたもともとの西除川が大きく改変されたことはあまり触れていません。

元来、西除川は美原区太井と北余部間の府道西藤井寺線に架かる渡丈橋から今のように直流せず、やや西を曲がりながら流れていました。同区小寺の平松寺前からは、今井の法雲寺の裏手を蛇行し、丹南一丁目の国道309号線に近接して、今井と丹南の市境となつて、西除橋の南へと流れていたのです。

前号で紹介した「竹内街道」案内板の設置場所も西除橋でしたが、大阪中央環状線に架かる丹南橋の一つ上流の橋も西除橋とよばれ、右岸側は丹南、左岸側が今井となります。

昭和五十七年(一九八二)八月一、三日の豪雨により、美原や松原市域の西除川は大洪水を起こし、多くの浸水家屋が出ました。そこで、大阪府では「河川激甚災害対策特別緊急事業」にかかり、西除川の大改修工事を始めたのです(『歴史ウォーク』274)。岡から新町地区までの工事は昭和六十三年(一九八八)に完成しましたが、すでに昭和四十三年(一九六八)からの「中小河川改修事業」によって河川工事を進めていた大阪府は、この災害を契機に、より治水面を拡充していったのです。

渡丈橋から丹南橋に流れる西除川は蛇行が著しく河積狭小な状況になりました。これは、この区間が東高西低の地形の西側の中段段丘に添って流れる自然河川の様相を呈している

たからです。このため、工事は蛇行する流れの大部分を廃し、新たに渡丈橋から丹南橋までの一・九kmを直流するショートカットの新川をつくるというものでした。昭和六十三年の激特事業の終了と同時に流路付け替え事業が始まったのです。工事は、ほぼ十年の歳月を要し、平成九年(一九九七)六月に通水しました。

今では、美原側の旧河道は法雲寺の裏手を「西除川緑道」として整備し、今井地区公民館前は西除川公園となっています。そこでは地中にコンクリート管を設け、水を生かしていますが、公園から丹南一丁目に入ると、旧川がそのままの景観で流れています。自然堤防時代の松林が今も残り、在置水路とよばれて遊水・保水機能を果たしています。旧川の兩岸は工場や病院が建ち、自由に立ち入ることが出来ませんが、旧川が新川に流れ込む丹南一丁目の合流点は、新川側から見ることができません。

合流点の北側に架かる西除橋付近は、江戸時代には丹南郡丹南村、同郡今井村と丹北郡松原村岡や八上郡野遠村(現堺市北区)との三郡境界の地でした。また、西除橋は野遠村から丹南村に入る旧道で、真つすぐ東へ国道309号線を越えて行くと丹南天満宮に至るのです。同地は村々や、その後の市や区境が交わる結節点でもあったのです。